

面しなければならぬ最大の危険である。英軍は同時に歐洲大陸に對し米空軍の有力な援助の下に空の一大攻勢を展開して居る。論が分れるがやつてみる勇氣は十分あると思ふ。又日本軍に對しても出来るだけ早くヨリ以上の空軍勢力を差向けねばならないといふ點に於ては皆の意見が一致してゐる。陸上兵力を使用することに就ては樞軸潜水艦の活動もあり非常な困難を伴ふが頻りに會議を開催して陸上兵力の活用に萬全を期し度い。

一九四三年に於てソ聯は再び重大な試練に直面して居るが米英兩國としてはソ聯軍の重荷を軽減する爲めに努めねばならぬ。同時に、口大統領と予とがスターリン人民委員會議議長及び蒋介石と會見出来ることを熱望して居る。然し樞軸軍は依然として強く大きな軍隊と巨大な資源と極めて價値ある戰略的領域を確保して居る。戦局が長引く場合には複雑な事件が持ち上り民主主義各國が疲弊して分裂に陥る恐れあり戦局の遷延することが反樞軸軍に對つて重大なる危険である。

五月二十日(木)

正午より一時間半に亘り太平洋軍事會議開催され口大統領、チャールズ首相、駐米英國大使ハリファックス、カナダ首相マッケンジー・キング、駐米カナダ公使マカルシー、重慶代表宋子文、その他濠洲、ニュー・ジラランド代表参加

會談後、マカルシーは「我々は太平洋の到る處を歩き廻った」と述べ、駐米ニュー・ジラランド公使ロイドンは「局面は全體として樂觀して好い様に思はれた」と語り、又宋子文は「チャールズ首相の演説で太平洋戦局に付き希望がおける様になつたのではないか」との質問に「然りと答へたいところだが……」と答へた。

チャールズ首相は會談後、自治領代表及英陸海空三代表と協議

五月二十一日(金)

6
口大統領は記者會見に於て、「予とチャールズ首相とは今夜反樞軸今後の戦略に付き兩國參謀總長の意見を攝取し兩三日中に二人の間で検討を加へ來週中には最後の決定を得る見込である。米空軍は現在太平洋、歐洲の兩戦域に略均等に配置せられ、海外に派遣せられ

てある米陸軍は大部分太平洋方面にあると言語る
チヤール首相、口大統領は兩國軍首脳部を交へて會談、會談後チ
ヤール首相は英國大使館に移る

五月二十二日（土）

チヤール首相は米大統領特使として印度を訪問して歸國したワイリッ
プス竝に重慶派遣米軍司令官ステイルウエルと會談

五月二十三日（日）

チヤール首相白聖館を訪問、翌二十四日拂曉迄口大統領と會談

五月二十五日（火）

チヤール首相は白聖館に於ける記者會見の席上「太平洋の戦争に
は最大の力を用ひて遂行すべきことは明瞭である。口大統領と會見
した結果、太平洋の戦争を強化することに付いて健全且つ良好な結
論に到達した。印度派遣軍の首脳を帯同したのも又重慶派遣米軍司
令官が會談に参加したのもその爲めである。反樞軸軍の戦力は著し

く増大してゐるから軍需の増産が現状のまま維持せられる限り、日本軍の戦争も歐洲戦線と同様な戦力をもつて戦争を遂行することが出来よう。日本軍に對する戦争は一層の力をもつて且つ出来得る限り早く断行されねばならない。一九四一年並に四二年には何れの戦線に優先権を與へるか軍需品を如何にして補給するかに就て相當困難を免れなかつたが今では反極軸軍の資源が著しく擴張せられたから双方の戦線ともヨリ以上の戦力によつて從來以上の利益を受けよう。但し東亞の戦線に於て大洋を超えて非常な距離を遠征することか其の他交通連絡上の困難が伴ふことを忘れてはならぬ。歐洲戦線に於ては空中戦が決定的だご自分は確信する。又ソ聯に就ては現在以上にソ聯に註文を付けるやうなことは自分としてやるべきことではないと思ふ。旨述ぶ

五月二十七日（木）

米大統領秘書アーリーは記者會見に於て次の公報を記者團に發表
華府會談に於ける統合司令部會議の結果一切の戦線に於ける將來の作戦に就き完全な意見の一致を見るに至つた

五月二十九日（土）

チヤートル首相デブラルターに到着

附録ニ 米大統領特使デイヴィスのソ聯訪問

外電に依り米大統領特使元駐ソ聯米國大使ジョゼフ・デイヴィス Joseph Edward Davies のソ聯訪問に之に關聯して駐ソ聯米國大使スタンドレーの言動及びリトヴィノフ駐米ソ聯大使の動靜を日誌體に誌せば次の通りである

一月八日（金）

駐ソ米國大使スタンドレーは昨年十月十九日以來華府に歸國中の處、
クイブイシエフに歸任

三月八日（月）

米大使スタンドレーはモスクワに於る記者會見に於て「ソ聯當局は現在の戦争が唯ソ聯國民に依つてのみ戦はれ而もソ聯國民が唯自國の資源に依つてのみ戦つてゐるこの印象を國內及び國外で作り出さうと努めてゐる」と語り不滿の意を表明

五月一日（土）

リトヴィノフ駐米ソ聯大使は華府發空路歸國の途に就く

五月五日（水）

デイヴィスは口大統領のスターリン議長宛親書を携行モスクワ向け
華府出發

五月六日（木）

口大統領は記者會見に於て「デイヴィスは予のスターリン議長宛親書を携行して居る、デイヴィス自身も其の内容を知らされて居ないがスターリン議長へ手交する際には自づと承知する筈である、彼の旅程は目下歸國の途にあるリトヴィノフ駐米ソ聯大使とも全く別である」旨語る

五月十四日（金）

2 デイヴィス、カイロに到着

五月十六日（日）
デイヴィス、テヘランに到着

五月十七日（月）
デイヴィス、クイブイシエフに到着

五月十八日（火）
デイヴィス、スターリングラードを飛行機にて視察

五月十九日（水）
デイヴィス、モスクワに到着、記者團と會見し「予は單なる使者としてモスクワに來たもので口大統領よりの親書の内容は全然知らない、予はスターリン議長の返書を携へて華府に歸還出來ることを希望する」旨述べ

五月十九日（水）

リトヴィノフ駐米ソ聯大使カイロより空路テヘランに到着

五月二十日（木）

デイヴィスはスタンドレー同道にてモロトフ外務人民委員をクレムリンに往訪

デイヴィス、スターリン人民委員會議長を訪れ米大使スタンドレーの紹介に依り會見、ロ大統領の親書を手交、モロトフ外務人民委員も同席す、會見後、記者團に對し「スターリン議長との會見は午後九時から十一時半迄行はれた、ロ大統領の親書の内容に關しては何も言ふことは出ないが、右親書は極めて長文のもので、スターリン議長は親書の内容を翻譯するに無言の儘傾聴して居た、終つて同議長は、近日中に再び予と會見し度いとの意向を表明した」旨語る

五月二十一日（金）

4
ロ大統領は記者會見に於て「予のスターリン人民委員會議議長宛書翰の内容は、之を持參したデイヴィスすら知らされて居ない、この内容を知つて居る者は予の外には秘書アーリーののみ、予の書翰を讀

んだ後スターリン議長は多分デイヴィスと其の内容に關して討議するであらう、デイヴィスは討議終了次第出来る丈け早く華府に歸還する筈である」旨語る

五月二十三日（日）

スターリン議長はクレムリンに於ける午餐會にデイヴィスを招待、現に歸國中のリトヴィノフ駐米ソ聯大使も出席

五月二十六日（水）

デイヴィスはスターリン議長と會見、モロトフ外務人民委員同席、スターリン議長より口大統領に對する返書を手交
會談後、デイヴィスは「予は直ちに華府に歸還の途に就く豫定である」旨記者會見にて語る

六月一日（火）

デイヴィス空路華府に歸着、白堊館を訪れ口大統領にスターリン人民委員會議議長の返書を齎す

五月三十一日附毎日新聞所載三十日發廣東特電に依れば、
スタンドレー駐ソ米國大使はデイヴィスのモスクワ派遣に
不満を感じ口大統領に辭意を表明したと二十九日華府より
放送せられた

六月一日 火曜日

五七

一 アツツ島守備隊の最後 谷萩大本營陸軍報道部長は我
アツツ島守備隊の最後に就て、敵側の情報を綜合するに我アツ
ツ島守備隊は五月二十九日夜半マサツカ峠 Massacre Pass 附近
にありし敵集團部隊に突入これを潰走せしめ敵戦線を混亂に陥
らしめた模様である旨の談話を發表した (五六九六)

五七一

二 開戦以來の英軍の損害 英副首相アトリーは下院に於
て開戦以來三箇年間の英軍の損害は五十一萬四千九百七十三名
に達する旨次の如く發表した

戦死 九二、〇九九

行方不明 二二六、七〇九

負傷 八八、二九四

俘虜 一〇七、八七一

計 五一四、九七三

(内) 譯) 英本國

戦死 七三、四七七

行方不明 七五、四〇三

負傷 五〇、一六三

俘虜 七六、八〇一

計 二七五、八四四

カナダ

戦死 三、一四二

行方不明 二、〇五八

負傷 一、三五七

俘虜 三、八六五

計 一〇、四二二

濠洲

戦死 六、一九二

行方不明 二、四一九三

負傷 一、五七〇

俘虜 七、八七四

計 五三、九五九

ニュージーランド

戦死 三、二一九

行方不明 二、八六〇

負傷 七、一七八

俘虜 六、〇六八

計 一九、三二五

南阿聯邦

戦死 一、四三九

行方不明 一、三三五〇

負傷 三、二二九

俘虜 四、五九七

計 二二、六一五

印度

戦死 三、二八六

行方不明 八、六二八九

負傷 九、一六八

俘虜 三、二三六

計 一〇、一九七九

其他の植民地

戦死 一、三四四

行方不明 二、五五六

負傷 一、四九九

俘虜

五四三〇

計

三〇、八二九

(五五七三) (10)

五七一三

濠軍開戦以來の損失

濠首相カーチンは開戦以來本年

三月迄の濠軍損失は六萬七千百九十一名に上る旨次の如く發表した

戦死二〇、二五三

行方不明二一、九一四

負傷二四、三〇三

俘虜二〇、七二一

計 六七、一九一

(五六一六)

五七一四

伊軍首腦異動

伊陸軍省は陸軍首腦部の異動を次の如

く發表した

第一線軍司令官

エデオ・ロッシ

前陸軍參謀總長大將

Edio Rossi

陸軍參謀總長

マリオ・ロアッタ

陸軍大將

Mario Roatta

(五一二六)

五七一五

米護送用驅逐艦六隻進水

米海軍省は潜水艦に對し特

別防禦力を有する船團護送用驅逐艦六隻が去月二十五日フィラ

デルフイア造船所に於て進水した旨發表した(五六二八)

五七一六

米特使デーヴィス華府歸着

口大統領特使デーヴィス

はフェアバンクス經由空路華府に歸着した (五六五四)

五七一七 米五月中の造船高 米海軍委員會次長少將グイツカリ

一は記者會見に於て、五月中の造船高は百七十五隻百七十八萬二千噸で、一月より五月迄の合計は七百十四萬二千百二十二噸となり、一九四二年の造船高八百八萬九千七百三十二噸より百萬噸少いだけである旨を述べた (五六三〇)

五七一八 米炭坑争議 米東部諸州に於る鑛山労働組合所屬炭坑

夫五十三萬五千は總罷業を開始した
米内相イツキーズは鑛山労働組合會長ルイス並にアパラチア共
同瀝青炭會議々長(鑛山労働組合支部長)ホーソンの兩名に對し、
坑夫並に少數の有力炭坑經營者は交渉未解決の責任を負ふべき
であり、更に罷業は現在關係諸炭坑が政府の接收下にある關係
上、政府に對する罷業を意味する故に組合員の即時職場復歸を
要求する旨を打電した
戰時労働局及内相イツキーズは暫定的妥協案として三十日間の
罷業停止期間の延長を勞資双方に提案したが、ルイスは同提案
に對し右期間中一日一弗五十仙方賃金増額を條件として承諾せ

五七二四

決戦態勢確立方策並に府縣會議員總選舉延期
勢確立方策が閣議に於て決定せられた、尙今秋行はれる府縣會議員總選舉を中止し議員の任期を一箇年延長することに閣議に於て決定せられ之に關する法律案が臨時議會に提出せられることとなつた (五六八三)

五七二五

企業整備要綱 臨時議會に提出すべき企業整備諸法案の基準となる企業整備要綱が閣議に於て決定せられた、右に依り不急産業の整備、超重點産業及同協力諸産業の再編成が行はれる (五七二四)

五七二六

交易營團役員任命 計畫交易の中核体たる交易營團は本月八日登記を行つて發足することとなり、政府は一日附を以て同營團の總裁以下副總裁、理事、監事の任命を行ひ、三井物産會社常務取締役石田禮助氏が總裁に、横濱正金銀行取締役有馬長太郎氏及重要物資管理營團理事長住井辰男氏が副總裁に任ぜられた (五五九〇)

五七二七

市、町村、府縣制並に北海道會法が實施せられた
改正市制、町村制、府縣制並に北海道會法が實施せられた (五五二六)

五七二八 日本商工經濟會 商工經濟會法、同施行令、同施行規
則が實施せられ、單位商工會議所は從來の都市單位から府縣單
位に編成されることゝなつた、尙日本商工會議所は帝國ホテル
に臨時總會を召集解散した (五七二六)

五七二九 東京都制 東京都制が公布せられた (五七二七)

五七三〇 東京市水道條例改正 東京市では水道條例の改正を行
ひ六月一日實施した、右に依り上水道専用栓の最低一箇月使用
量十立方米が八立方米に切下げられると共に最低料金九十三錢
が九十錢に改められた

五七三一

六月二日 水曜日

我中支方面部隊の戦果

大本營から次の通り發表せら

れた

一、中支方面の我部隊は五月十九日以降宜昌對岸地區の江防軍及第十集團軍主力其他約十二万の重慶軍を攻撃六月一日迄に次の如き戦果を得た。我方の損害戦死二百三十七名

遺棄死體約一八六〇〇 俘虜二六七八

鹵獲品 船舶一六〇〇噸 各種火砲五〇

重輕機關銃二五九 小銃二五二三

二、五月上旬開始せる洞庭湖西方地區より宜昌對岸地區に亘る江南作戦は完全に其の目的を達成し各部隊は夫々原態勢に復歸した。六月一日迄に凡明せる本作戦の総合戦果は次の通りである。我方の損害戦死四百七十五名

遺棄死體約三六三〇〇 俘虜五九二三

鹵獲品 船舶一六〇〇噸 各種火砲九〇

重輕機關銃四七一 小銃四九二七（五五九二）

五七三二

獨海空軍五月中の戦果

獨總統大本營は獨海空軍が五

月中に於て反樞軸船舶七十六隻四十三万噸を撃沈、更に二十四隻に損傷を與へた旨發表した、右の内六十五隻三十八万噸は潜水艦に依る戦果である (五四二〇)

五七三三 伊海空軍五月中の戦果 伊軍司令部は伊海空軍が五月

中大西洋及地中海に於て敵商船十三隻八万八千噸及英潜水艦一隻を撃沈した旨を發表した (五一二二)

五七三四 新西蘭軍の開戦以來の損害 ニュージーランド首相フ

レーザは同國軍の開戦以來四月迄の損害は二万五千三百七十名に達する旨次の如く發表した

戦死五六六八 行方不明九七二 負傷一〇七一七

俘虜八〇一五 計 二萬三七二 (四五〇一)

五七三五 米大統領労働問題關係者招致 ロ大統領は夕刻内相イ

ツキーズ、内務次官ワイツ、戦時動員局理事シード戦時労働局のグレイアム、モールズ兩名、労働局雇傭者代表ロバートソン、

オリオ代表ピトナリー、A.P.L代表ワット等を白堊館に招致して協議した (五七一八)

五七三六 米互惠通商法二箇年延長案 米互惠通商法二箇年延長案

は上院本會議に於て五十九票對二十三を以て可決せられた

(五五九四)

五七三七 米隨時納稅法案成立

米上院は隨時納稅法案を可決即

日白聖館に回付した

(五六七〇)

五七三八 エチプト内閣改造

エチプト政府は内閣の一部改造を

發表した、右に依り首相ナハス・バシヤは内相の兼攝を解かれ
たが依然外相を兼攝してゐる (五七〇七)

五七三九 重慶政權海關總稅務司更迭

重慶政權財政部長孔祥熙

は海關總稅務司メイズの辭表を受理した旨を發表した、メイズ
の後任には前廣東海關長米人リツトルが任命せられた (五七〇八)

五七四〇 臨時議會召集詔書

六月十五日帝國議會を東京に召集

し三日を以て會期となす旨の詔書が公布せられた (五六八一)

五七四一 大日本勞務報國會

全國百三十万の日傭勞務者及其の

業者よりなる大日本勞務報國會が創立せられ、元厚生相吉田茂
氏が同會々長を委囑せられた (五六八二)

六月三日 木曜日

五七四二

米軍俘虜數

米陸軍長官

スチムソンは開戦以來米兵の
樞軸側に俘虜となつてゐる者は萬國赤十字社よりの通告に依れ

ば合計一万七千八十三名である旨下の如く發表した

日本一、三〇七

獨三、三一二

伊三、四六四

計 一、七〇八三

(五、六、五、三)

五七四三

佛領北阿政權解放佛國民委員會

チロ、ド、ゴール

兩將軍會議の結果に關し次の如き公報が佛領北阿政權當局から
發表せられた

一、左記七名の委員より成る解放佛國民委員會を設置しチロ、
ド、ゴール兩將軍が交互に委員長に就任する

フランス國民委員會委員長

ド、ゴール

元フランス大使

ルネ・マシグリ

國民委員會内政勞働委員

アンドレ・フィリップ

佛領北阿政權主席

アンリ・チロ

前シリア總督

ジョルジュ・カトル

元佛軍々團長

アルフォンヌ・ジモルジュ

フランス政治家

ジャン・モネ

一、マルセル・ペイルトンに代りカトルーがアルジェリア總督に、ノゲスに代り元シリア總督ビュ！オ！がモロッコ總督に、マンチガルに代りブ！カ！が北阿空軍司令官に夫々任命せられた
(五六九八)

五七四 獨東部占領地に私有財産制復活布告 獨東部占領地相

アルフレツド・ロ！ゼンベルグは白ロシア、ウクライナ其他の舊ソ聯領住民に對し、今後凡ゆる土地を地方住民の私有財産として彼等に譲渡する、既に現在迄に住民に割當てられた土地は其の儘彼等の所有となり、現在不在の者も耕作に従事し得る者には土地の割當が行はれる旨を布告した (四六〇三)

五七五 反樞軸食糧會議閉會 反樞軸食糧會議は將來第二次食糧會議を開催するために中間委員會を設置する旨を決議して閉會した (五五八四)

五七六 デーヴイス特使が大統領會見 大統領特使デーヴイ

スは白聖館に大統領を訪問會談した (五七一六)

五七四 米租賃法豫算案上院可決 米租賃法豫算案が上院に於て可決せられた (五六二一)

五七四八 口大統領の罷業労働者に対する職場復帰命令 口大統領

領は内務長官イツキーズに對し戦時労働局の命令に従ひ延長せられた舊契約の下に規定された労働條件の下に罷業炭坑夫をして炭坑作業を繼續せしめるやう命令し。更に同夜彼は大統領並に軍の最高指揮官として罷業炭坑夫に對し六月七日迄に復業するやう命令する旨聲明した (五七三五)

五七四九 米パツカ：下自動車工場罷業 米デトロイト。パツカ
下自動車工場(五六一〇)の自動車労働組合員約二万が罷業を開始した (五七四八)

五七五〇 米大統領任期制限案 米民主黨上院議員ジョシア・ペ
イリ―は大統領の任期を二期八年以内に制限する趣旨の憲法修正案を上院に提出し (五七〇〇)

五七五一 米社會保険法案 米民主黨上院議員ロバート・ワグナ
ーの發案に係る左記要旨の社會保険法案が上下兩院に同時に提出せられた

一、家庭労働者及自營業者にも健康保險及産兒保險の利益に與か
らしめる

一、兵役に徴集された壯丁に戦後に於て失業保険を適用する
二、失業保険料として雇傭者、被雇傭者共に被雇傭者賃金の一二
%を支辨する

五七五二 米加艦船衝突事故損害補償に関する協定 米カナダ兩
國海軍艦船が衝突した場合に於て損害補償に對する凡ての要求
は相互に承認しない旨の協定が兩國間に於て調印せられた

(五六二二)

五七五三 埃及エチオピアを承認 エチプト政府(五七三八)は
エチオピアを承認アジス・アベバに公使館を設置することに決
定した (五〇六四)

五七五四 元駐日瑞西公使逝去 元駐日、現駐ブラジル・スイス
公使エミール・トラヴァーシニ博士は逝去した

五七五五 大政翼賛會事務總長更迭 後藤文夫氏は大政翼賛會事
務總長事務取扱を解かれ、元警視總監丸山鶴吉氏が同事務總長
を命ぜられた (五六六三)

六月四日 金曜日

五七五六 アツツ島作戦に於る米軍戦死者數 米海軍省はアツツ島作戦に於る米軍の戦死者は一千五百三十五名である旨を發表した (五七一)

五七五七 米太平洋潜水艦隊司令更迭 米海軍省は海軍少將チャールズ・ロックウッドがイングリッシュの後任として米太平洋潜水艦隊司令に任命せられた旨を發表した (五五二九)

五七五八 アルゼンチンに革命勃發 アルツィロ・ラウソン將軍は軍隊を率ひ未明行動を起しアルゼンチン政應位に政府諸機關を占領した。次でラウソン。前陸相ペドロ・ラミレス兩將軍及アントニオ・スワレス提督の三人に依つて臨時政府が組織せられた革命政府は同日全國に戒嚴令を施行したが國民に對し秩序維持を要望すると共に新政府は大陸連帯の精神と國際條約に遵據して外交關係を處理するであらうと聲明した

カスチーロ Ramon Castillo 大統領は事態急を告ぐるやギニアス外相以下七名の閣員と共に掃海艇に乗じ首都を脱出ウルグアイ國コロニア港に赴いた (五二〇七)

(1088)

五七五

七五九

米糧業彈壓法案上院可決 米糧業彈壓法案が下院に於て二百三十一票對百四十一票を以て可決せられた。同法案の要旨は既述せるものの外次の如きものである。

一、軍需工場に於て罷業を行ふ場合は三十日前の豫告及労働者の秘密投票に依る決議を要す

一、労働組合は總て聯邦労働關係局に登録し、其の財政状態をも報告する義務を有す

一、労働組合は政治運動資金を献納し得ず (五四五〇)

五七六

六〇

米炭坑労働者復業 米嶺山労働組合は組合會長ルイスの罷業打切りの指令に接し同組合政策委員會を召集討議の結果、滿場一致ルイスの指令通り七日から復業することに決定した。

(五七四八)

五七六

六一

佛領印度支那混合聯邦參議會 フランス政府は佛領印度支那に混合聯邦參議會を設置する旨を發表した。(五六七六)

五七六

六二

企業整備資金措置法案要綱 企業整備の促進、浮動購買の發生防止、及國家經濟秩序の維持を目的とする企業整備資金措置法案要綱が閣議に於て決定せられた。同法案は第八十三

帝國議會に提出せられる

(五七二五) (1090)

五七六三 食糧増産應急對策要綱 食糧増産應急對策要綱が閣議

に於て決定、農林省から發表せられた (五六四八)

五七六四 戰時衣生活簡素化實施要綱 國民衣生活の簡素化を圖

るに於て決定即日情報局から發表せられた (五五二五)

六月五日 土曜日

五七六五 山本元帥國葬 山本元帥の國葬が日比谷葬場に於て施

行せられた (五六一五)

五七六六 ショートランド島に敵機來襲 大本營發表に依れば帝

國海軍航空部隊はショートランド島に來襲せる敵機群と交戦、
其の二十機を撃墜、五機を撃破した、我方未歸還機三機、尙シ

ショートランド島は昨年三月帝國海軍陸戰隊が無血占領し今日に
至つた島である (五四一三)

五七六七 アルゼンチン革命 ブエノスアイレス市放送局の放送

に依ればカスチーロ大統領は朝ラプラタ港に於て革命軍の爲

逮捕の上、ブエノスアイレス市に護送せられ、同地に於て大統領を辭任し、内閣も總辭職した
 革命軍首班アルツィロ・ラウソンは後繼大統領に就任、左記の如き新内閣を組織した

- 大統領 アルツィロ・ラウソン將軍 Arturo Rawson
- 副大統領 アントニオ・スワレス海軍少將 Antonio Swarez
- 陸相 ペドロ・ラミレス將軍 Pedro Ramirez
- 海相 ベニト・スエイロ海軍少將 Benito Sueyro
- 外相 ドミンゴ・マルチネス將軍 Storni
- 内相 セアンド・ストルニ提督
- 公共相 ドミンゴ・ピスタリニ將軍
- 藏相 ホセ・マリア・ロイヤ
- 法相 ホラシア・アルデロン
- 農相 ディエゴ・マツソン Diego Masón

(五七五八)

五七六八 亞新政府共產黨員逮捕 アルゼンティン新政府當局は同國共產黨機關紙ラ・オラの事務所を捜査し、之を閉鎖した上、

十四名の共産黨員を逮捕したラ・オラ紙の日曜版が新政権の反動的傾向を論難したに由るものである (五七六七)

五七六九 英首相チャーチル・ロンドン歸着 英首相チャーチルは空路ロンドンに歸着した、英政府當局は首相のロンドン歸着に就て、チャーチル首相は歸還の途次アルジエールに於てアイゼンハウアーと會見し、ジブラルターで英外相アイデンと落合ひ西北アフリカに於る米英軍を視察し、チュニスをも訪問した、四日には英地中海艦隊司令官カニングハムと午餐を共にしたが、其の席にはデロイ、ド・ゴール及び新にアルジエールに設置されたフランス解放委員会の委員も列席した旨を發表した (五六八六)

五七七〇 獨軍需生産状況 ベルリン。シエボルト。パラストに於て開催された第二回軍需工業労働者表彰式に於てシエベリア軍需相は軍需生産状況に就て演説し、今年五月に於て機關銃の生産數は一昨年平均月産數の三倍に、彈藥の生産は六・三倍に、各種口径砲は四倍に、重機關銃は三倍に、對戰車砲は六倍に達し、五月中に生産された重戰車の數のみでも昨年中の全生産高

を超過して居り、飛行機の生産高も一九四一年以來數倍に増加した旨を述べた、次でゲツベルス宣傳相は其の演説中に於て過去五箇月以來の新勞働體制に依り三百五十萬人に上る新勞働力の登録があり、内二百五十一萬人は既に勞働を開始したので數十萬の男子が武器を持つて戦線に赴くことが出来ることとなり冬の危機は過ぎ去つた旨を述べた (五五〇八)

五七七一 佛の對獨援助 佛首相ラヴアルは放送演説を行ひ其中に於て過般獨佛協定が成立し四月一日から七月一日迄に佛人勞働者二十五萬がドイツに送られることとなつたが、其の後更に積極的に對獨勞働力供給を行ふこととなり、一九四三年度の壯丁全部を徵用することに決した旨を述べた (五七〇二)

五七七二 佛三祖界返還 天津、漢口、廣東に於る佛專管租界が夫々國民政府に移管せられた (五五八八)

五七七三 比島行政府内務部長官狙撃さる 比島行政府内務部長官ホセ・ピー・ラウレル Jose P. Laurel はマニラ市内ゴルフ場に於て拳銃を以て狙撃され負傷したが生命には別條はない (二〇六六)

五七七四

谷大使東京着

谷駐華大使は福岡經由空路入京した

(五五八〇)

(1094)

六月六日 日曜日

五七七五 スチルウエル・カイロ着 支那派遣米軍司令官スチル

ウエルは空路カイロに到着した (五七〇三)

五七七六 在支米空軍司令官歸任 在支米空軍司令官シエンノ

トは空路重慶に歸任した (五三七一)

五七七七 亞國大統領領辭任 アルゼンチン大統領アルツィロ・ラ

ウソン將軍は就任後一日に滿たずして辭任した (五七六八)

五七七八 在亞邦人無事 アルゼンチン駐劄富井大使から外務省

に對し、大使館員及約七千の在亞邦人は全部無事なる旨の入電

があつた (五七七七)

五七七九 濠バタ―割當制實施 濠洲關稅相キーンは全國に亘り

七日からバタ―の割當量を一人一週半封度とする旨發表した (五六八〇)

六月七日 月曜日

五七八〇 英の伊領ランペドウサ島上陸作戰 伊軍司令部發表に
依れば英軍がマルタ島とチユニシアの中間にあるランペドウサ

Lampedusa

島に上陸を企圖(三七〇〇)したが、伊軍警備軍

は此を殲滅し敵海軍艦艇數集を撃沈した(五五八一)

五七八一 獨空襲に因る英家屋被害高 英保健省は開戦以來獨空

軍の爆撃に因り三百万以上の家屋が破壊され、内百五十万は全

壊した旨發表した

五七八二 佛正規軍編成 佛政府は、一九四二年徴集の壯丁を以

て佛正規軍を編成し、ラヴアル首相の直接命令下に置く旨を發

表した、先づ三個大隊三千人の兵員より成る一個聯隊が創設さ

れる筈である(五七七一)

五七八三 米四月中の軍需品生産狀況 米戰時生産局長官ネルソ

ンは月次報告に於て、四月中に於る武器生産高は略五十億弗に

達し飛行機の生産高は三月に比し一一%増加し小型軍艦の引渡

も三月に比し八三%の増加を示した、四月中に完成した船舶の

引渡總數は百四十九隻百七十万重量噸に達した旨を述べた

(五四九五)

五七八四 米海軍豫算上院可決

米上院は二百五十億弗の海軍擴

張豫算案を可決した

(五六〇五)

五七八五 米上院官吏任用議會承認案可決 米上院は年俸四千五百弗以上の聯邦官吏の任命は議會の承認を要する趣旨の法案を可決した (四七〇五)

五七八六 米炭坑夫復業 米東部諸州の罷業炭坑夫は組合本部の指令に基き復業せる者既に五十万に達した (五七六〇)

五七八七 ラウソン竝にラミレス兩將軍聲明 アルゼンチン大統領アルツィロ・ラウソン將軍の辭任はラミレス將軍との間に外交政策に關する重大なる意見の相違ありたるに由るを報せられてあるがラウソン將軍は右に關し、前政府排除の目的は達成されたが新政府の構成に就て意見の一致に到達することが不可能なる事實に鑑みラミレス將軍に臨時政府大統領たる地位の最後の辭表を提出する旨を聲明した

陸相ラミレス將軍は、本日より彼は政府の首班竝にアルゼンチン全軍の總司令官たる地位に就任する旨を聲明した

ラミレス大統領は午後七時左記の通り内閣を組織した

大統領 領 ペドロ・ラミレス將軍 Pedro Ramirez

副大統領 領 サバ・スエイロ海軍少將 Sneyro

外	相	セグンド・ストルニ	海軍中將	Storni
陸	相	エデルミロ・ファレル	將軍	Edelmiro Farrell
海	相	ベニト・スイロ	海軍少將	Benito Sueyro
藏	相	ホルヘ・サンタマリナ		Jorge Santa Marina
内	相	アルベルト・ギルベルト	大佐	Albert Gilbert
法相兼文相		エルビオ・カルロス・アナヤ	大佐	Elvio Anaya

農 相 *Diego Maschade*

公共事業相 *Ismael Galindez*

ラミレス大統領は組閣完了に當り、アルゼンチンは現存諸條約に従ひ米洲諸國との友好協力關係を維持すべき傳統的的政策を認めし殘餘の世界各國に對しては現在のところ中立政策を持續する旨を聲明した

(五七七八)

二七八八 チリ内閣總辭職 チリ内閣は總辭職し、リオス大統領は直に次の通り新内閣を組織した

大 統領 *Juan Antonio Rios*
 外 相 *Joaquin Fernandez*

内相兼海軍司令官 フリオ・アリヤード提督

藏相兼經濟相兼商相 ギエルモ・デル・ペトレイガル (留任)

Guillermo del Pedregal

國防相兼陸軍司令官 エスクデロ將軍

文 相 エンリケ・マルシヤル

勞 働 相 マリアノ・ブストス (留任) Mariano Bustos

農 相 オラシオ

公共保健相 ソテロ・デ・リオ博士

拓 相 アレハンドロ・ラゴス

公共事業相兼運輸相 リカルド・バスクナン

法 相 オスカル・グアルハルド (留任)

リオス大統領は、来る十五日訪米の途に就く豫定であつたが、
今回の政變に由り出發を無期延期する旨發表した

(三六九一)

五七八九 駐華勃公使信任狀捧呈 駐南京ブルガリア公使ペイエ

フは午前國民政府汪主席に信任狀を捧呈した (七八五)
(三四五八)

補遺

六月二日 水曜日

五七九〇 米比敗殘軍指揮官逮捕 北部ルソン島米比敗殘部隊の總指揮官米大佐ノーブル Colonel Noble は米中佐モーゼス Moses 外二名の幕僚と共に力ガヤン溪谷地帯に於て我軍に逮捕された (五七七三)

× × × × × ×

六月八日 火曜日

五七九一 獨伊の米兵俘虜數 米陸軍省は獨伊軍の俘虜となつて
ある米兵は一萬七千名である旨發表した (五七四二)
五七九二 チュニジア戰に於ける英軍の損害 英首相チャーチル
は下院に於てチュニジア戰に於る英軍の損害は三萬七千名に達
する旨次の通り發表した

第八軍死傷者數約一、五〇〇 第一軍死傷者數約二、五五〇〇
計 三、七〇〇〇 (五五八二)

五七九三

米、ブラジル及サルヴァドルと相互徴兵協定調印

米

(120)

政府とブラジル及サルヴァドル兩國政府間に夫々相互徴兵協定が調印せられた、右に依り在米兩國國民に對し相互主義に基いて

五七九四

一九四〇年の徴兵法が適用されることなつた(四五九三)

五七九四

米炭坑罷業に因る損害 米内務長官イツキーズは過去

一週間に亘る炭坑罷業に因り石炭一千百萬噸の損害を蒙つた旨

五七九五

日獨銀行支拂協定調印 本年一月調印された日獨經濟

協定協定の第一條金融協力條項に基く日獨銀行支拂協定が正午横濱正金銀行東京支

店に於て柏木同行頭取とローゼンベルグ獨東亞銀行(四〇九〇)

代表との間に調印即日實施せられた (四三七五)

五七九六

交易營團 大東亞交易計畫の中樞實施機關たる交易營

團は八日設立登記を完了し、交易營團法施行規則が公布即日實

施せられた、右に依り貿易統制會、重要物資管理營團は解消し、

交易營團の重要物資の保藏業務は八日より、交易業務は本月下

旬又は七月早々開始される豫定である (五七二六)

六月九日 水曜日

五七九七 子ロ、ド・ゴール兩將軍の分擔決定 佛領北阿政權
解放佛國民委員會は子ロ、ド・ゴール將軍を陸海空軍司令官に任命し軍事
方面を擔當せしめ、ド・ゴール將軍には政務一般を統轄せしめ
ることに決定した旨を發表した (五七四三)

五七九八 米罷業彈壓法案成立 米上下兩院協議會は罷業彈壓法
案に就て左記内容の妥協案を作成、兩院の承認を経た上白聖館
に回付することとなつた
一、政府に接收した軍需工場乃至鑛山に於て罷業を計畫し又は罷
業を煽動する者には罰金刑乃至禁錮刑を課す
一、戦時勞働局に勞働爭議調停の絶對權を與へ、爭議發生の場合
は戦時勞働局は其の調停に立ち交渉妥結に至る迄従來の勞働
條件の繼續を強制し得
一、民間軍需工場に於ても勞働者の無記名投票に依らなければ罷
業を行ひ得ず (五七五九)

五七九九 米政府顧問任命 米政府當局はバーナード・バルーチ
Bernard Mannes Baruch を政府顧問に任命した旨發表した、戦時

動員局長官バーンスは記者會見に於て、バルーチは戰時動員局の最高顧問として彼を輔佐することになつてゐる旨言明した

(五六八八)

五八〇〇 バラグアイ大統領訪米
バラグアイ大統領モリニゴは

華府に到着した

(五三七三)

五八〇一 ブラジル外四箇國亞新政府を承認
ブラジル、チリ、

パラグアイ、ボリヴィアの四箇國はアルゼンチン政府を承認し

(五七八七)

五八〇二 内閣顧問任命
石炭統制會及重要産業協議會の會長松

本健次郎氏が内閣顧問を仰付られた

(四九八三)

五八〇三 東京都官制案要綱
東京都官制案が樞密院本會議に於て可決され、同案要綱が内務省から發表せられた(五七二九)

六月十日 木曜日

五八〇四 南太平洋に於る地上火器に依る敵機撃墜數
大本營は南太平洋方面帝國陸海軍部隊は地上火器に依り三月一日以降五月末日迄に敵飛行機に對し次の損害を與へた旨發表した